



平成24年11月12日

卓話 『女子大生の未来図』

昭和女子大学 学長

坂東 眞理子 様

皆さんこんにちは。女子大は今大きな変革期にあります。少し前、女子大を出るのは恐らく男性の大学生よりもエリートでした。女子の大学への進学が少ない中で女子大で学ぶとなればそれだけの使命感を持っていたと思うんですが、今や女子大の学生は普通の女の子です。

女子には女子特有の教育が必要だと言われます。一昔前、女子大には良妻賢母、家庭をしっかりマネージメントできる教養をつけるという使命があったと思うんですが、今、私は、やっぱり女子大がやらなければならない教育はあると思います。少子高齢化の中で日本の経済は女性の力を必要としています。その中で女性がきちんと仕事をしていくためには何を考えなければいけないのかということ、女の子にしっかり教えなければいけない。男子学生とは違った知識、ものの見方が必要なんです。男性だったら家庭との両立なんて考えなくてもいいけれど、女性だったら子どもを持てるような職場はどこにあるか、子どもを持って思うように仕事ができないときにどう生き延びるのかなど、教えることがいっぱいあります。

女子大の昭和型モデルは、卒業のあとちょっと社会見学のために就職するというものでした。女性も寿退社が一番あらまほしきスタイルでした。今は仕事を続けるにしても男の人並みには働きたくない、家庭を大事にしながら仕事をしたいという女の子が多いのです。また男性の場合、仕事に必要な知識も技術もマナーも、オンザジョブあるいは赤提灯で鍛えられることが多かったの

ですが、女性はそういう場から外れているので鍛えられる度合いが低い。ですから就職のときはどの企業も女子学生の方がしっかりしているけれど、その女の子が5年経ち、10年経つと輝きが失せていく。それは日本の職場にチャレンジしたい女の子を鍛え育てるというキャリアパスが見えないせいじゃないか。そんなこともあって企業の中で男性並みのジェネラルマネージャーではなく専門職として働く方がいいということで、教員や看護師の免許、栄養士など各種資格の人気が高くなっています。

女子大生はとってもおしゃれです。実は女の子は女の子の目を非常に気にします。普通、恋人の褒め言葉で女性はきれいになると言われますが、それはイタリアやフランスあたりまでで日本ではあり得ない。日本では褒めてくれる男性が少ないですから女性が自分たちで切磋琢磨するのかなという気がします。そこで当校では、先輩に下級生を鍛えてもらおうということで、昨年から社会人の女性に学生を指導していただくことを始めました。また来年4月にスタートするグローバルビジネス学部では、社会人の方が教員とペアになって学生を指導するというプロジェクト学習システムの導入を予定しており、さらに学生たちが何か責任を持った仕事に取り組み、そこから学べるような機会を作りたいと考えております。

今後ともご指導のほどお願いいたします。

